

POPPPO

Uji City Welfare Service Public Corporation Recruit Project 

ism



Message

メッセージ



「職員がまず元気でいきいきと。
太陽のように、輝いている存在になる。」

利用者とともに、市民とともに。

求職者のみなさんはじめまして。一般財団法人 宇治市福祉サービス公社の田實です。突然ですが、みなさんが知っておられる法人には、オーナーや社長という存在がいるのが一般的ですね。しかし当法人には限定したオーナーはいません。あえて言うならばオーナーは宇治市民のみなさんなのです。

だからこそ地域密着型の介護事業サービス等を基本に行いながら、ボランティアや民生委員の方々をはじめ、幅広い世代の方にも関わって頂いて、地域のくらしに還元できるサービスを提供できるよう日々取り組んでいます。つまり、宇治市が期待を込め発足した法人での仕事ですので、とてもやりがいがあります。

このような想いから『利用者とともに、市民とともに』という私たちの基本理念を掲げており、その想いを遂行していくためには、まず職員が太陽のようにいきいきと業務に取り組むことができ、「こんなことをしたい!」というアイデアが活発に出し合える、風通しの良い組織づくりを日々心掛けています。是非、私たちと共に求職者のみなさんの想いやアイデアをカタチにしていきませんか。

Profile

昭和40年に京都市で生まれて早や半世紀が過ぎる。部活動(ソフトテニス)に明け暮れた学生時代を満喫し、平成元年に日本福祉大学を卒業。その後は高齢者福祉分野での職歴を積み重ね、公社とは法人設立当初から今日まで共に歩み続ける。只今50歳を機にフルマラソン4時間以内の完走を目指し、職場の仲間と立ち上げたランニングチーム(ぼっぼRC)の一員として日々奮闘中。



Takayuki Tajitsu > 事務局長

田實 敬幸

「ふだんから自分磨きができる人を、
私たちは求めています。」

太陽のように、綿毛のように。

求職者のみなさんこんにちは。事務局次長の川北です。「あなたは、なぜ福祉業界を選んだのですか?」「当社に就職して、どのような事をやっていきたいですか?」このような質問に対して、自身の内なる想いを言葉にし、それを相手に伝えるというのは簡単な事ではありませんよね。ご利用者さんとのやりとりの中で、またチームで仕事をしていく時、相手に伝えるだけではなく伝わるという事がとても重要になってきます。そうすると自分がこんな事をしたい、こんな提案をしたいという気持ちが必要ですし、提案をするという事は何かの課題を感じているからで、まずその課題に気づけるアンテナが張っていないと何も始まりませんよね。

ではそのアンテナはどうやって張れるものなのかと考えた時に、これは仕事の中だけで得られるものだけではなく、むしろ日々生きている中で培われていくものだと思うのです。つまり仕事をしていない休日に、自分の趣味や感性を養う時間がしっかりと確保されていて、心身が太陽のように温かく、時には熱く充実しているからこそ、アンテナの感度がより上がると思うのです。そしてこれらをたんぽぽの綿毛のように届けていく事ができるのです。

このように公社ではプライベートの時間を充実させ、仕事への意欲に還元していくスタイルを実現させる事で、公社を引っ張っていく頼もしい存在が育っています。つまり誰かの役に立ちたいという想いや福祉マインドは必要だけれど、同様にふだんから自分磨きができる人を私たちは求めています。このような考えに共感して頂ける方に、現場での経験を積み重ねながら、公社ならではの独自性の高い事業に関わってもらいたいです。そして宇治市民の方だけではなく将来自分の生まれ育った故郷のために経験を積みたいという考えをお持ちの方にも是非来て頂きたいと思います。ここ公社で育まれた太陽みtainな優しさが、仲間によって綿毛のように各地に運ばれて芽吹いていく。これが私たちが想い描くぼっぼイズムなのです!



Profile

昭和42年に広島県福山市で出生。高校時代に青少年ボランティアサークルに参加した経験から福祉の道を志す。平成2年に日本福祉大学を卒業後、宇治市内の特別養護老人ホームに就職して以来、一貫して宇治市の高齢者福祉分野で仕事を行う。公社には平成15年から在席。趣味のギター弾き語りで京都・大阪を中心に週末はライブ三昧。絵に描いたようなライフとワークのバランスを満喫中。



Yuichiro Kawakita > 事務局次長

川北 雄一郎

Talk Session

トークセッション ここでは、これからの公社を担っていく職員みなさんに、公社のあれこれを語り合ってください。



高橋

今回のトークセッションは、それぞれの事業所においてデイサービスやケアマネジメントに関わる仕事をしているメンバーですが、まず最初にどのようなきっかけで福祉業界に興味を持つ事になったのか、そして実際に公社の一員として働いている現状について、率直な気持ちを語り合っていきます。



小島

私はこれまで様々な経験をさせて頂いて、現在ケアマネジャーとして2年目なんですけれど、学生の時は児童虐待を専攻していたんですよ。そして就活当時は高齢化社会がどんどん進んでいく世の中で、自然に高齢者の虐待についても触れる機会が多くなり、特別養護老人ホームの介護職としてこの福祉業界をスタートする事になりました。



城土井

私が通っていた小学校にはデイサービスセンターが併設されていて、運動会や交流会があった事から、介護士という存在には馴染みがありました。後に祖父のお見舞いに行った時、自然に介護の仕事に興味湧いたのがきっかけでしたね。



児玉

私は社会福祉士について勉強している時の実習先がこちらの中宇治でした。その時に感じたのが、ご利用者さんの困難な事案に対して、決して降りる事なく関わり続けていく事で解決できる方法を粘り強く探していき、そのための準備や支援をする職員さんの姿を間近で見て、カッコいい仕事だなと思ったのがきっかけでした。



高橋

僕は前職が介護医療の現場のためデイサービスの経験がなく当初は不安もあったのだけれど、一言でいうと今凄く仕事が好きです。理由は、うちの事業所はフレンドリーでとても良い雰囲気でご利用者様を迎える事ができていると実感しているからです。また感謝の言葉をかけて頂いたりすると、もっと喜んで貰える企画を実施したいというモチベーションに繋がり、この仕事を通して自分の存在を感じているからです。



城土井

そうですね。職場のチームワークは重要ですね。特に私が入社した当時は同世代の方が少なく親子くらい離れた先輩方の中で働く事になって最初は不安があったのですが、とても良い雰囲気の中で指導して下さいるので、この仕事を続けていく自信が持てました。そういう意味でみなさんには、ああいう風になりたいという憧れの先輩はいますか？



児玉

…います！（即答）私の係は4人のチームでそれぞれが別の仕事をしているのですが、ある上司の方は私より桁違いに仕事の量が多くそれどころではない筈なのに、私がどこで躓いているかを把握しておられて、困ったなというタイミングで声を掛けてくれるのです。また無数にある案件に対して、私からの質問だけでなくご利用者さんからの質問に対しても素早く正確に答えておられる姿を見て本当に憧れています。自分には経験がまだまだ足りないという事はわかっているのですが、ああいう風になりたいと思える上司がいる事で、今の仕事に対するモチベーションは上がりますよね。



城土井

公社は休日が多いですが、皆さんはどのような時間を過ごされていますか？



小島

私は前職時には現在の働き方とは真逆で、全く休みが取れない福祉業界で勤務をしていました。これが当たり前なんだと思っていたのですが、5年目ぐらいでしょうか、心身ともに仕事づきの生活に疑問を持ち始めた頃、公社の求人をみかけたのです。就労条件には約125日の休日が確保できるという事で、半信半疑ではありましたが魅力を感じて応募しました。



高橋

僕も中途入社なので、確かに休日数に関しては魅力的に感じたのを覚えているのですが、実際に公社に入社をしてみて働き方がどのように変化をしたのですか？



小島

そうですね。仕事柄ご利用者様を通して本当に様々な価値観があるという事を知ると同時に、自分はそういう事に触れる事が好きなんだという事にも気づいたのです。そしてある時この休日を利用して、リフレッシュを兼ねて初めて海外旅行にしてみました。あたり前ですが、日本とは違う外国の文化や価値観に自分でも驚く程ハマってしまったんです。そしてそれは自身のライフワークのようになっていったのですが、上司をはじめ職場の方々が、『それはあなたにとって大切なライフワークに感じられるから行っておいで！』と長期の休みに対しても協力的に送り出してくれています。現在私にとっての休日はとても意味のあるものに変わっています。



城土井

私も海外まで行く事はないのですが、美味しいモノを探しに遠出をしますね。はじめはオンオフの切り替えができて良いなと思っていたけど、いろんな見聞録をするうちに年配のご利用者さんとの話が自然に弾むようになってきたんです。『あそこは大切な人との思い出の場所なのよ』とか『次はあそこに行ってみたら』と個人の想い入れを聴かせて頂くようになり、それに対して自分が体験しているからこそ話し合える事ができると実感しています。その意味で私も仕事に還元できる休日を過ごしているのかもしれないね。



児玉

みなさんが仰られているように、私の憧れている職場の先輩方も、作業としてこなしているようには見えず、職場の中だけでは決して得られないような人間的な魅力があるからこそ相談員として深みのある対応ができるのだと思います。やはりプライベートには福祉の研修だけではなく興味のある研修に参加するという話をよくお聴きしますからね。



小島

以前の私のように休日が少ししか取れない就労体系なら、休む為だけの休日になってしまい、仕事以外に興味を抱いたり行動に移す事が出来なかったでしょうね。本当にプライベートの充実がより良い仕事に結びついていると実感しますね。



高橋

皆さん上手にスイッチオンオフされていますね。このトークセッションで皆さんの想いを改めて感じることができました。これからも公社の職員として力を合わせて共に頑張ってください。

Yuka Kodama ▶ 入社3年目／社会福祉士
西小倉事業所 地域包括支援センター係

児玉 裕香

【趣味・特技】映画鑑賞 【好きな事】きれいな景色を見る事

Atsuyoshi Takahashi ▶ 入社6年目／介護福祉士
西小倉事業所 デイサービス係チーフ

高橋 孝嘉

【趣味・特技】お弁当作り 【好きな事】面白い映画を探す事

Mami Kojima ▶ 入社7年目／社会福祉士
東宇治事業所 ケアマネジメント係

小島 真美

【趣味・特技】旅行 【好きな事】色々な場所の絶景を巡る事

Miyu Jodoi ▶ 入社3年目／介護福祉士
広野事業所 デイサービス係

城土井 美裕

【趣味・特技】ウォーキング 【好きな事】美味しい物を食べる事



Outline

事業概要 ここでは、公社で取り組んでいる事業の一部をご紹介します。

住み慣れた地域で安心して暮らしていただくために 介護保険事業

デイサービス

公社が目指すデイサービスは「笑顔と笑い声が絶えないデイ」。お客様が安全に、快適にお過ごしいただくことを基本に、「今日も1日楽しかった!」「また来たい!」と思っていたようなサービス提供を目指しています。お客様一人ひとりの希望に沿った個別支援につとめ、選べるレクリエーションメニューや、リハビリメニューも充実しています。また、地域とのつながりも大切に、多くのボランティアさんによる催しや、子ども達との世代間交流にも積極的に取り組んでいます。



ホームヘルプサービス

公社のホームヘルプサービスは、宇治市最初のヘルパーステーションとして、公社設立当初から地域の第一線で活動して参りました。長年の経験に裏打ちされたきめ細かなサービスで、お客様一人ひとりに寄り添った支援をモットーに取り組んでいます。ヘルパーさんが安心して仕事ができるようサポート体制を組むと共に、自信を持って仕事ができるような教育・研修体制も万全です。地域に安心と笑顔を届けるヘルパーさんは在宅福祉の要です。



認知症の人が安心して暮らしていただくために

初期認知症総合相談支援事業

れもんカフェ



全国の広がる認知症カフェの中でも一際注目を集めているのが宇治の「れもんカフェ」です。公社では宇治市の委託を受け、宇治市域に認知症の人とそのご家族が安心して過ごせる場としてカフェの開設・運営に取り組んでいます。カフェは認知症の人の居場所だけでなく、認知症を正しく理解する場、気軽に相談できる場としての機能もあり、更にはそこで出会う当事者、専門職、市民のネットワークの場でもあります。「認知症のひとにやさしいまち・うじ」の実現は「れもんカフェ」から始まっています。

全国に広がる認知症カフェの中でも一際注目を集めているのが宇治の「れもんカフェ」です。公社では宇治市の委託を受け、宇治市域に認知症の人とそのご家族が安心して過ごせる場としてカフェの開設・運営に取り組んでいます。カフェは認知症の人の居場所だけでなく、認知症を正しく理解する場、気軽に相談できる場としての機能もあり、更にはそこで出会う当事者、専門職、市民のネットワークの場でもあります。「認知症のひとにやさしいまち・うじ」の実現は「れもんカフェ」から始まっています。

初期集中支援チーム

認知症の人を早期からサポートする新たな機能として、国もその設置を進めているのが「認知症初期集中支援チーム」です。公社では平成25年度から国のモデル事業としてこの事業に取り組み、その活動は全国からの視察が絶えない程、一つのモデルになっています。認知症



になっても安心して住み慣れた地域、在宅で過ごすには、早期からの適切なサポートが不可欠です。認知症の人と家族に寄り添い、伴走者として認知症と共に生きることを支援できる、やりがいのある仕事です。

いつまでも地域で元気で暮らしていただくために 介護予防事業

歌笑会



認知症が国民的課題となり、その予防にも関心が集まっています。公社ではこれまで取り組んできた認知症予防教室に、「歌」と「笑い」を加えた新たな認知症予防教室「歌笑会(かしょうかい)」を開催しています。昔懐かしい歌を歌うだけでなく、その歌が流行った当時のことを思い起こしていただける映像とトーク。そして認知症に対する正しい理解を深めていただきます。歌というタイムマシンに乗って時間旅行を楽しみながら、自然と脳が活性化していきます。

介護予防教室(パワリハ、足しっかり)

公社にはリハビリテーション専門職が在席する「介護予防サポートセンター」があります。宇治市からの委託を受け市内各地で、様々な形態で介護予防教室を開催し、高齢者の皆様がいつまでも元気に地域で活躍できるようなサポートを行っています。また、リハビリ専門職として、市内の地域包括支援センターや他機関のケアマネジャー等のサポート活動にも積極的に取り組みます。更に、介護予防教室のボランティア養成にも力を入れています。高齢者の皆さんが役割を持って地域で活動することが、ご自身の介護予防につながるからです。



福祉の担い手を育てていくために

介護人材の養成と育成

ほほえみ介護塾

公社では設立当初からの役割として、介護人材の育成に取り組んでいます。「ほほえみ介護塾」では市民を対象にした、介護職員初任者研修課程の講習を行い、これまでに300名の介護専門職の“たまご”を



輩出してきました。当介護塾の卒業生が公社の第一線で多数活躍しています。これからも福祉マインドに溢れた人達が宇治市内の介護事業者や、地域の中で活躍いただけるように、地域の人材育成にも積極的に取り組んでいきます。

公社内職員研修(社内研究発表会)

公社は「きょうと福祉人材育成認証事業所」の認定を受け、働きやすい職場環境と人材育成、キャリアアップの仕組みを整えています。経験年数別の社内研修や外部研修は勿論、専任業務に必要な各種の研修にも積極的に取り組んでいます。係別研修や事業所の枠を超えた全体研修の開催。更には日ごろの業務成果を自らが分析し、発表することで、仕事の改善や質の向上を図るための社内研究発表会にも取り組んでいます。



『宇治』の福祉を、あたたかく照らす。



中宇治事業所

〒611-0021
宇治市宇治琵琶1-3
TEL 0774-28-3150
FAX 0774-28-3190

- ・総務課
- ・福祉情報センター係
- ・介護予防サポートセンター係
- ・障害者相談支援センター係
- ・ケアマネジメント係
- ・中宇治地域包括支援センター係



西小倉事業所

〒611-0042
宇治市小倉町山際63-1
(西小倉地域福祉センター内)
TEL 0774-22-3084
FAX 0774-22-4094

- ・ヘルプサービス係
- ・デイサービス係
- ・ケアマネジメント係
- ・西宇治地域包括支援センター係



東宇治事業所

〒611-0011
宇治市五ヶ庄折坂5-149
(東宇治地域福祉センター内)
TEL 0774-38-2331
FAX 0774-38-2347

- ・ヘルプサービス係
- ・デイサービス係
- ・ケアマネジメント係
- ・東宇治南地域包括支援センター係



広野事業所

〒611-0031
宇治市広野町大開72-1
(広野地域福祉センター内)
TEL 0774-48-4351
FAX 0774-48-4352

- ・ヘルプサービス係
- ・デイサービス係
- ・ケアマネジメント係

一般財団法人 宇治市福祉サービス公社

〒611-0021 宇治市宇治琵琶1-3
TEL 0774-28-3150(代表)
FAX 0774-28-3190
<http://www.poppo.or.jp>

